

是弘遺跡 現地説明会資料

調査期間：令和6年11月1日～令和8年3月31日 調査主体：香川県埋蔵文化財センター
調査地点：さぬき市造田野間田・是弘 調査原因：東讃統合高校建設

12区の調査成果

12月から2月の調査は、遺跡内の中央部で行いました。

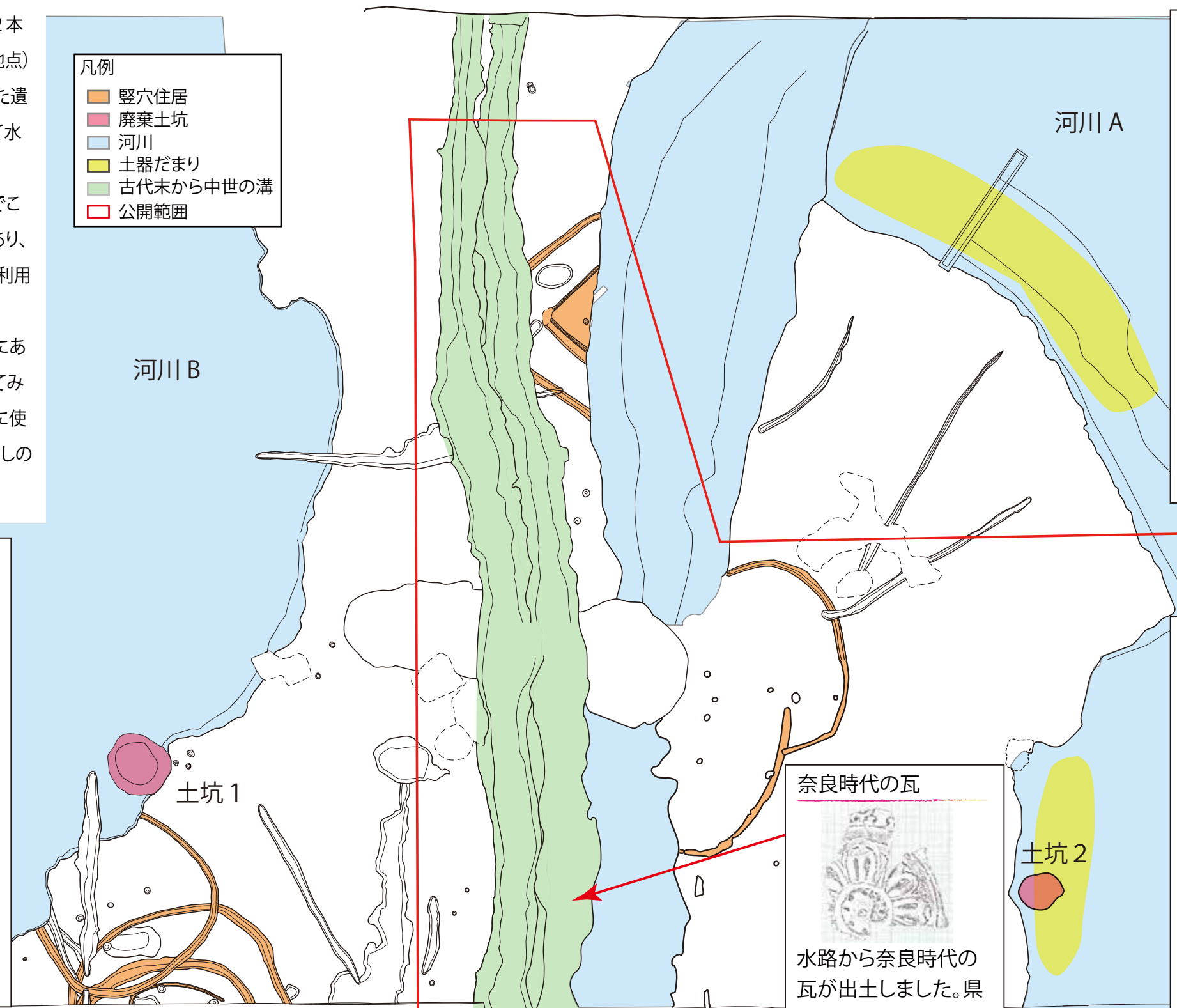
調査の結果、これまでの調査でみつかった2本の河川跡のほか、河川に挟まれた微高地(小高い地点)に、弥生時代から古墳時代の住居や生活に関連した遺構群が広がること、平安時代から鎌倉時代にかけて水路が作られていたことがわかりました。

特に、12区で検出された水路(溝)は、是弘遺跡でこれまでみつかっていなかった古代・中世の遺構であり、弥生時代以降にもこの場所で人々の生活と土地の利用がつづいていたことがわかってきました。

また、同じ微高地上のやや河川から離れた地点にあたる13区では、計10棟前後の竪穴住居がまとまってみつかりました。これらの竪穴住居の中からは、生活に使われた土器や炉の跡がみつかり、当時のくらしの様子が具体的にわかってきました。

凡例

- 竪穴住居
- 廃棄土坑
- 河川
- 土器だまり
- 古代末から中世の溝
- 公開範囲



鎌倉時代の土地利用



調査区の中央で、南北方向の溝が2条みつかりました。

中からは、平安時代の終わり頃から鎌倉時代(12世紀～13世紀)の須恵器や土師質土器、瓦などが出土しました。

溝で囲まれた弥生時代の住居

12区では、弥生時代終わり頃(およそ1800年前)の竪穴住居が5棟みつかりました。

どの住居にも、写真のように外周を囲うように溝が掘られています。河川に近い立地のため、外から水が入ってくることを防ぐために、溝を掘りこんだものと考えられます。



河川に挟まれた弥生時代のムラ



2つの河川に挟まれた場所で、弥生時代の終わり頃～古墳時代の初め頃の集落がみつかりました。当時のこの場所は、水を手入れやすく、不要なものも河川に捨てることのできる生活しやすい場所だったのでしょう。

川岸に掘ったゴミ穴



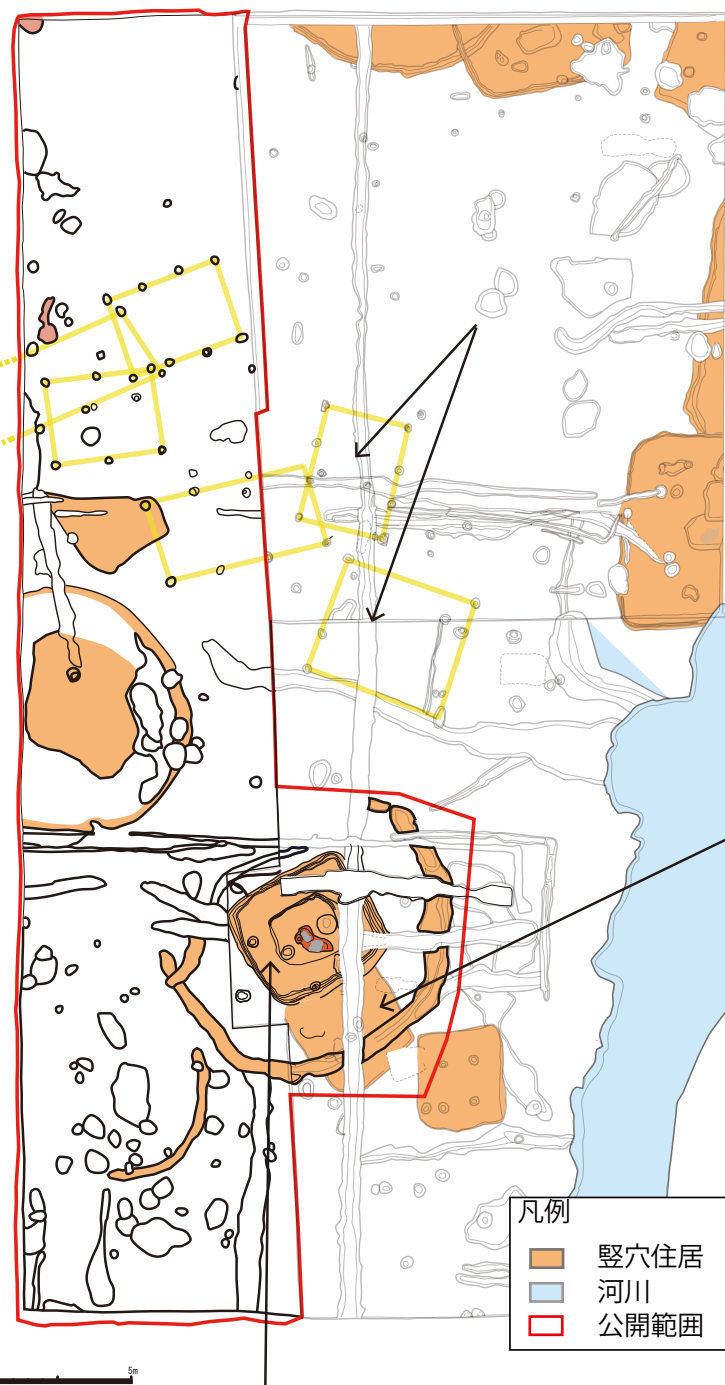
河川跡の岸では、廃棄土坑(ごみ捨て穴)がみつかりました。中からは弥生時代の終わり頃から古墳時代初めの土器が多量に出土しました。

奈良時代の瓦



水路から奈良時代の瓦が出土しました。県内では珍しい文様です。

13 区の調査成果



弥生人の台所ー中央土坑



中央部の竪穴住居SH2001では、住居の中央にたくさんの炭がつまった土坑(穴)がみつかりました。住居内で暖をとったり、食べ物を煮炊きするための炉であると考えられます。

なぜ?共存する2種類の建物



竪穴住居とともに、掘立柱建物も6棟がみつかりました。

埋められた土の状況から、竪穴住居と同じく弥生時代に建てられたと考えられます。集落の中で、竪穴住居と掘立柱建物とで、用途に応じた使い分けを行っていたのでしょうか。

是弘最古の竪穴住居発見!



上：竪穴住居遠景、下：土器出土状況

中央部の竪穴住居SH2018では、床面からたくさんの弥生土器が出土しました。どれも住居内で使用されたものと考えられます。土器の作られた時期は弥生中期中葉(約2200年前)で、この住居は、是弘遺跡の中で現状最古の竪穴住居です。是弘遺跡での人々の生活は、少なくとも約2200年前には始まっていたようです。

竪穴住居に凝らされた工夫



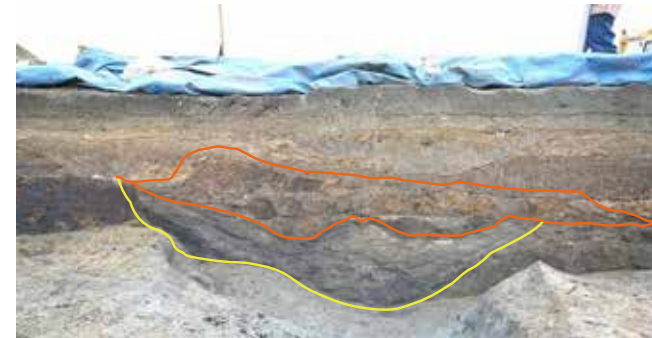
竪穴住居(赤線内)と外周溝(黄線) (13区)



重ねて建て替えられた竪穴住居の外周溝(12区)

竪穴住居本体は後世に削られてなくなっています

古代・中世の遺構と土地開発



中世溝の断面(オレンジ線内が埋め戻し土)

12・13区の調査では、河川に挟まれた微高地上で弥生時代の竪穴住居が密集してみつっています。河川に面して水の入手がしやすく比較的安定した土地であるこの微高地上が、当時の集落の中心であったものと考えられます。

今回みつかった竪穴住居には、大部分の住居に建物本体のまわりを1周する溝(外周溝)が掘られています。この外周溝は、より河川跡に近く標高の低い場所の竪穴住居ほど、溝が深く掘られていることから、周囲からの雨水の侵入や湿気対策のために掘られたものと考えられます。

また、昨年調査した、河川跡を挟んだ対岸にあたる2-6区や10区の竪穴住居では、外周溝をもたないかわりに、住居内部から外に伸びる排水用の溝が掘削されていることがわかっています。

このように、河川に近い立地には、水を利用しやすいメリットがある一方で、住居内の浸水や湿気というデメリットもあったものと考えられます。是弘遺跡の集落では、このデメリットを解消するために、外周溝や排水溝などを整備して、より快適な生活のために工夫を凝らしていた姿がみえてきました。

しかし、この地に暮らした弥生時代の人々は、わざわざ浸水対策を行ってまで、なぜ低地での暮らしにこだわり続けたのでしょうか。水の入手以外に、なにか大きなメリットがあったのでしょうか。今後の調査で追及したい課題です。

12区の調査では、南北方向に2条の溝が掘られていたことがわかりました。溝の中には、須恵器や土師質土器、瓦などの破片が含まれており、これまでは是弘遺跡であまりみつかなかった平安時代末～鎌倉時代(12～13世紀)の遺構だとわかりました。この溝は、ある程度水が運んだ土砂で埋まったあと、周囲の地面を削った土で埋め戻されています。

このように溝を掘ったり地面を削ったりした痕跡から、この時期の前後には是弘遺跡の周辺では、大規模な土地の開発が行われていたことが考えられます。

ちなみに周辺は、中世の造田荘最勝四天王領域にあたります。



香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4

TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249

